



## コロナ禍でも“つながり”を絶やさない 地域のあたたかな取り組み紹介

事例1

### 食事サービス編

#### お弁当に季節の花や木の写真を添えた活動



食事サービスのお弁当にはいつもメッセージを添えています。今回、コロナ禍で外出がままならない高齢者に外出した気分になっていただくために、季節の花や木々の写真をアルバムにして楽しんでいただきました。

(日之出地区)



事例2

#### 電話での安否確認や調理ができないお弁当の代わりにものを配布

食事サービスの利用者に毎月、電話で身体の様子や身の回りのことについて尋ねて、安否確認をしました。また、公民館での調理ができないことから、お弁当の代わりにお茶やお菓子、インスタント味噌汁をお届けし、身体の様子などをお聞きしました。(啓蒙地区)

事例1

### 見守り活動編

#### メッセージカードの配布と声かけの強化

新型コロナウイルス感染拡大するなか訪問回数が少なくなり、高齢者の不安を少しでも取り除きたいと思い、メッセージを記入したカードを配りました。また、日頃からの見守りを維持するため、ゴミ出しなどのときに声かけを今まで以上に行いました。

(鶏地区、栗地区、鷹巣地区 類似取り組み含む)



事例1

### 自治会型デイホーム編

#### おうちでできるボランティア“手作りマスク”

自治会型デイホーム専任職員から市社協手作りマスクボランティア募集の情報を聞きました。協力者や利用者の中にはボランティアの意識が高い方もおられたので、デイホームが開催できない期間、おうちでできる手作りマスクの作成を呼びかけました。

(森田地区、酒生地区 類似取り組み含む)



事例2

#### 頭の回転通信の手渡しと回収での見守り活動

自治会型デイホームの休会中には、生活リズムが崩れると思い、公民館の協力を得て手作りマスクとなぞなぞやクイズ等の「頭の回転通信」を作成しました。

答え合わせを兼ねながら直接回収又は電話で安否確認や見守り活動を行いました。

(本郷地区)



つながり方の  
新たな選択肢を  
増やす第一歩を!!



全国各地では、小さな情報交換会や集まりが少しずつ始まると共に、ICT(=情報通信技術)を活用した非対面による交流などが広がっています。

人に直接会う頻度が少なくても、手紙や電話、メールなどで連絡し合う非対面による交流がある人はフレイル(=虚弱)予防につながるといわれています。いろいろな形で人との交流は大切にしたいですね。

当協議会でも各地区社協との情報交換会を継続し、そこで出たアイデアやチャレンジを共有して、地域の実情に合わせたつながり方の選択肢を増やしていきたいと思えます。